

入選

北沢 華恋(きたざわ かれん) 城山小 6年生

作品名:髪がつなぐ物語

図書:髪がつなぐ物語

「一つのウィッグをつくるのに、何人分の髪の毛が必要か知ってる？」

私は、一人分の髪の毛で、一つのウィッグをつくれるものだと思っていました。でも実際は、一つのウィッグに二十から三十人分の髪の毛を使っていると本に書かれていました。ウィッグは多くの人の協力があるからこそ、つくることができるものなのだと知りました。

ヘアドネーションは、自分の長い髪を寄付して、病気やその治りようで髪を失った子どもたちに医りよう用ウィッグをつくって贈り、子どもたちに使ってもらう活動のことです。献血とちがい、年齢や性別に関係なくできるボランティアです。この本の中には、小学生の男の子がからかわれたり、変な目で見られても、ヘアドネーションをやりとげた話や、ウィッグが完成した日に、病気で亡くなってしまった女の子に、ウィッグを届けてつけてあげる話も書かれています。本を読みながらふと、思い出した出来事がありました。

寒い冬のある日に、学校の音楽の先生がとても長くてきれいな髪を、ショートカットにしてきたのです。

「前の長い髪の方が似合ってたのに。」

と不思議に思っていると、先生がなぜショートカットにしたのか教えてくれました。

「ヘアドネーションするためにのばした髪を昨日切ったの。」

その時には気付けなかった先生のやさしさを今、感じています。他のクラスの友達や先生に話す事で、たくさんの人にヘアドネーションを知ってもらえる事ができたのも、良かったです。先生の髪型はちょっと似合わないと思ったけど、話をきいてからは、だれもからかったりしませんでした。

せっかく長くのばした髪を切るのは、ヘアドネーションのためにのばした人でも、勇気がいる事だと思います。だれかの役に立ちたいと思ってできる人達はすごいと思います。でも、本当に望んでいるものは、「ウィッグ」ではなく、「自分

の髪」だと思っています。今でも多くの方が「ウィッグ」を必要としています。早く、一人でも多く、髪の手で悩む人がへるように願っています。そして、私も髪をのばして、誰かの笑顔のためにヘアドネーションしたいと思うようになりました。